

様式2

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 伊豆の国市立大仁小学校

校長名 荻島 美智子

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	第4学年59名 交流学級児童1名 職員3名 保護者1名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間）行事名（大仁小パラリンピック） ② その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	パラリンピックについて学んだこどもたちが、実際に特別支援学校児童と共に簡単なスポーツ等に親しむ活動を通して、共生社会について考えることができる。（ <u>ルール</u> の工夫や相手のできる活動を考慮した会の運営ができるようになる。
5 取組内容	①国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」の活用 ―障害者スポーツについての理解を深め、「できる」ことに目を向けた支援や活動について考える見通しを持つ。（DVD・掲示用資料を使ったグループワーク） ②種目選定 ―今回交流する児童の「できる」ことが活かせる種目を基準として、お互いが楽しく交流できるスポーツ活動を選択するための体験を行う。 ③オリジナルキャラクター等作成・パラリンピックコーナー設置・聖火リレー  【マスコット】 【パラリンピックコーナー】 【交流児童を交えて聖火リレー】 ④第1回交流（4年1組） 交流児童の活動の様子を観察しながら、よりよい支援の形やルールの変更、場作りなどの振り返りを行い、次回開催へつなげる 活動（Oボッチャ Oボウリング O尻ばい（あぐら）レース Oひも宝とり）



【尻ばいレース】



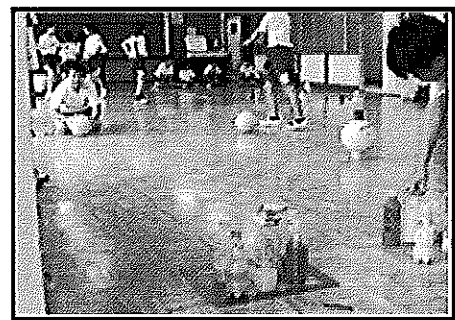
【ポッチャ】

⑤第2回交流（4年2組）

第1回交流を受け、「さらにできる」ことが発揮できるように工夫をして交流を行う。活動（○ポッチャ ○ボウリング ○尻ばい（あぐら）レース ○ひも宝とり）



【宝とり】



【ボウリング】

⑥振り返り

今回のイベントの振り返りや共生社会について考える事についてワークシートに記入・まとめた内容を学校の廊下に掲示し、紹介を行った。

【参加した児童の振り返りより】

- ・「本気」でがんばる人を「本気」で応援して、支えられるようになりたい。
- ・本当にオリンピックやパラリンピックが開かれるときは、進んで協力したい。
- ・できることに目を向けて、自分も努力をしていけるようになりたい。
- ・ルールや道具の工夫が、どんな人でも参加できるスポーツになることを学んだ。
- ・どんな立場の人（障がいがあってもなくても）楽しめることができた。

6 主な成果	○パラリンピックの理念を子ども達なりに解釈し、具現化をすることができた。 ○ハンディキャップを持つ人への視点がより広がっていった。
7実践において工夫した点（事業の特色）	○「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」というパラリンピックの理念を軸においたことで、居住地交流の内容を精選することができた。 ○「相手の良さを活かすこと」の視点は福祉について学んでいく上でとても大切なものになり、ルールの調整など児童の思いやりが発揮される場面となった。 ○第1回実践後にさらに改善を行ったことで、継続的に自分なりの参画を考える機会につながったのではないかと感じている。
8主な課題等	計画から実施までの期間が短かったので、外部講師を招聘することなどができなかった。（パラリンピアン）来年度は予算があれば、年度当初の計画で組み込みたい。
9来年度以降の実施予定	来年度も4年生総合「福祉」と関連づけ、ユニバーサルデザインとパラリンピックを柱とした単元計画を立てる。